イントラネットの動向と三菱電機のソリューションコンセプト

長澤一嘉*
佐田耕一**

要　旨

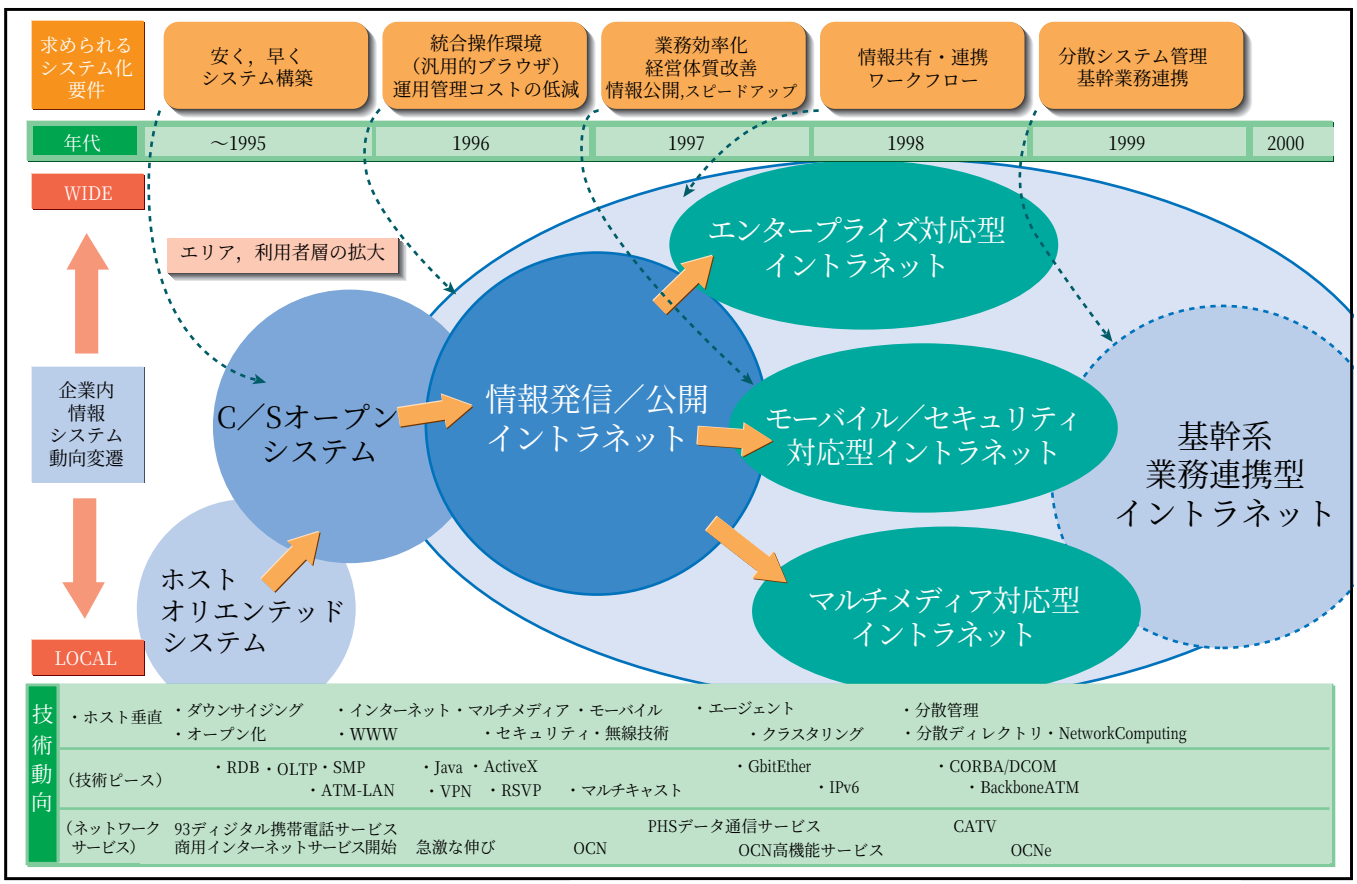
イントラネットは，企業内情報通信システムにインターネット技術を活用したものである。インターネットは，全世界6,000万ユーザーを接続し，日々拡大している。このネットワーク内で開発され利用されている技術を安価に企業内でも活用できる基盤を構築するところに意義がある。

企業内での活用は，第一段階の情報発信型が普及し，第二段階の情報共有型へと向かっている。今後は，インターネット技術を更に活用して，マルチメディアへの対応，モーバイルコンピューティングへの対応が期待されている。

三菱電機では，企業内情報通信システムとしてのイントラネット構築サービスをラインアップするとともに，三菱イントラネットシステムソリューション“IntraProp”シリーズを発表した。

企業内システムとインターネットとの大きな相違点は，加入しているユーザーの管理である。企業内システムで必要なセキュリティ管理やユーザー権限の管理は，インターネット技術活用において重要なかぎ(鍵)となる。

従来の計算機アーキテクチャに基づく情報システムがオープン化，クライアント／サーバ化の動きで革新を続けているが，イントラネットは新たな潮流である。特に，クライアント側にはブラウザを搭載するだけで業務アプリケーションを起動できることは，システムの運用管理者にとってコストを大幅に削減するものである。



企業におけるイントラネットの動向

企業におけるイントラネットは，既に情報発信の仕組みとして普及し，企業の情報インフラとなりつつある。更なる業務効率化，ワークフローとの連携，社内のデータベースとの連携を進めるために，インターネット技術を活用して，エンタープライズ型，モーバイル／セキュリティ型，マルチメディア型に分化発展していく。近い将来には，基幹系業務アプリケーションとの連携まで含めて，従来のクライアント／サーバシステムと協調していく。

*情報システム製作所長　**同製作所C／S・ネットワークシステム部次長